

【財団ホームページ掲載用の研究概要】

研究課題名

ガラクトース血症スクリーニングにおける蛍光マイクロプレートリーダーを用いた galactose-1-phosphate uridylyltransferase 活性測定法への切り替えについて

本研究は、ちば県民保健予防財団倫理審査委員会の審査結果(承認)を踏まえて理事長が許可した研究です。

当財団の検査室において、千葉県・千葉市より委託を受けて実施している先天性代謝異常等検査は現在 19 疾患が対象となっています。ガラクトース血症スクリーニングの検査法の一つであるボイトラー法(スポット法)は、蛍光を肉眼判定する定性検査であり、専用の濾紙が全国で使用されてきました。しかし、2014 年にその濾紙の製造が中止されたため、検査の存続に支障をきたしています。日本マススクリーニング学会では新しく蛍光マイクロプレートリーダーを用いたボイトラー法(蛍光強度測定法)への切り替えが推奨されています。本研究では、当検査室で検査を終了した一部検体の残余血液を個人が特定できない状態で使用し、ボイトラー法のスポット法と蛍光強度測定法の比較検討及び基準範囲等の設定を行います。研究期間は 2018 年 3 月 31 日までの予定です。

この研究により、当該スクリーニングによる偽陽性の減少、当該疾患の早期発見、早期治療の一助となることが期待されます。

研究責任者

検査部一般検査課 臨床検査技師 渡邊冴子